ディスクで作る組紐の準備と基本操作

準備するもの

① 組紐ディスク

市販のものでも、自作でも構いません。 一番使いやすいのは３２の切れ目があるタイプ。しっかりしたスポンジ状のものが良い。自作するときは段ボールや化粧箱を丸く切ったものでも代用できます。

② ハサミ

よく切れるものが望ましい。

③ はし

食事用の塗り箸でも可。 お弁当用のプラスチック製の箸がいちばん使いやすい。
糸をさばくのに便利です。

④ おもり

重量３０グラムがめやす。 五円玉を６～７個ひもを通して使うと便利。

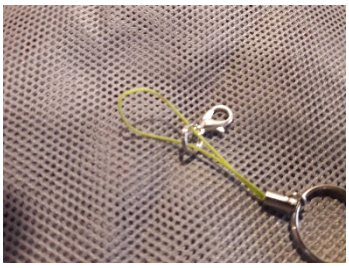
⑤ 糸

組紐の材料。どんな糸でも構いませんが、おすすめは刺繍糸または夏物用の編み糸。毛糸は初めての方は使いづらいかもしれません。

⑥ その他

作った組紐を利用するための金具類。たとえばブレスレット用、ネックレス用、ストラップ用金具など。　練習用には事務用の二重リングなど。　糸通しと終わりの始末のための残り糸 15cm ほど。

糸を準備します。　出来上がりの寸法の 5 倍の長さ（出来上がり１０㎝の場合 50 ㎝）の長さに切った糸を必要な本数（パターン図から数えます）準備して、揃えます。



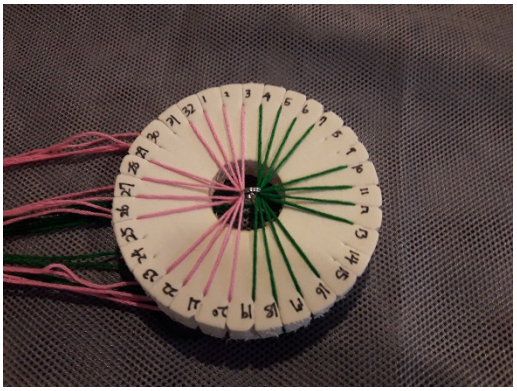
まず、ストラップのひもをカニカンの輪に通します。
この道具を作っていないときは、15cm ほどに切った糸を輪にしてリングに通します。

このストラップ金具（または別糸）輪に組糸の端のほう 3 ㎝ほどをくぐらせて、引き抜きます。こうすると、小さい穴に多くの本数の組糸を簡単に通せます。

通した組糸が左右均等になるように振り分けます。

次にディスクに糸をセットします。
このテキストの各ページ右上には組糸の最初の位置が示してあります。

図を見ながら、糸をデスクの切込み（スロット）に挟んでいきます。
このとき、カニカンがディスクの裏側になるように向けておきます。
糸の中心ができるだけずれないように、反対の手で糸を押さえておきます。



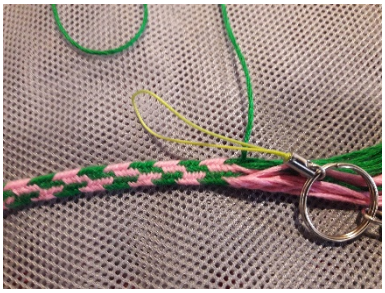
糸を一本ずつよりだすには箸を使うと簡単にできます。
糸がセットできたら、ゆるみがないようにピンと張った状態で、組み始めます。

組んでいる途中でも時々ゆるみがないか確かめます。

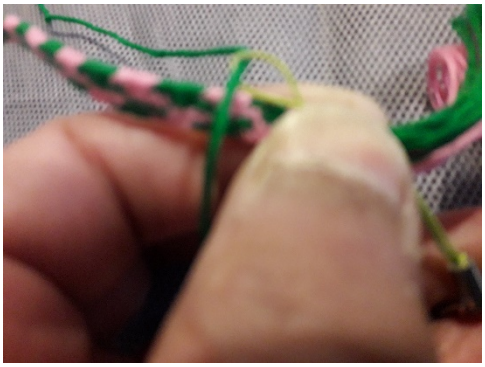
おもりをカニカンにぶら下げて組みます。

二重リングを使う場合などはおもりに安全ピンをつけておくと便利です。
この後は、手順に従って糸を移動していくだけで、お好みの組紐ができます。
もし、途中でわからなくなったら、手順を逆にゆっくりたどってほどいていきます。
「あきらめずに、いそがずに」が上手になる秘訣です。

組み終わったら



端の始末をしましょう。
組糸のうちの一本（図では上に向いている緑の糸）をより出しておきます。
さきほどの、ストラップ金具または、別糸 15cm ほどを折り返したものを、左の図のように組紐に組み終わりの部分から沿わせます。
この緑の糸を別糸ごと、組紐の組み終わり部分から、組はじめの方向に目を揃えながら、巻いていきます。おおむね 5 回をめどに巻きます。



巻いた糸の端を別糸の輪にくぐらせます。
このとき、余裕を持たせておくと、うまくいきます。

別糸を引き抜きます。別糸の輪が巻いた糸の下を通って、引き抜かれます。

引き抜いたら、巻いた糸の部分をしっかり押さえながら、引き抜いた糸を強く引き締めます。

最後に房の部分をきれいに切りそろえます。

このように薄い紙をそろえた房に巻いて、ハサミで切ると、きれいに切りそろえることができます。

最後に全体の形を整えます。

（注意）　金剛組の仲間は組みあがったあと、引き伸ばすのは良い結果にならないので、自信がつくまで、引き伸ばさないようにしてください。全体が緩んでしまうことがあります。平源氏系統の組紐は均等に伸ばしたほうが良い場合があります。
どれも、経験することで次第に身についてきますので、あまりこだわらなくて結構です。

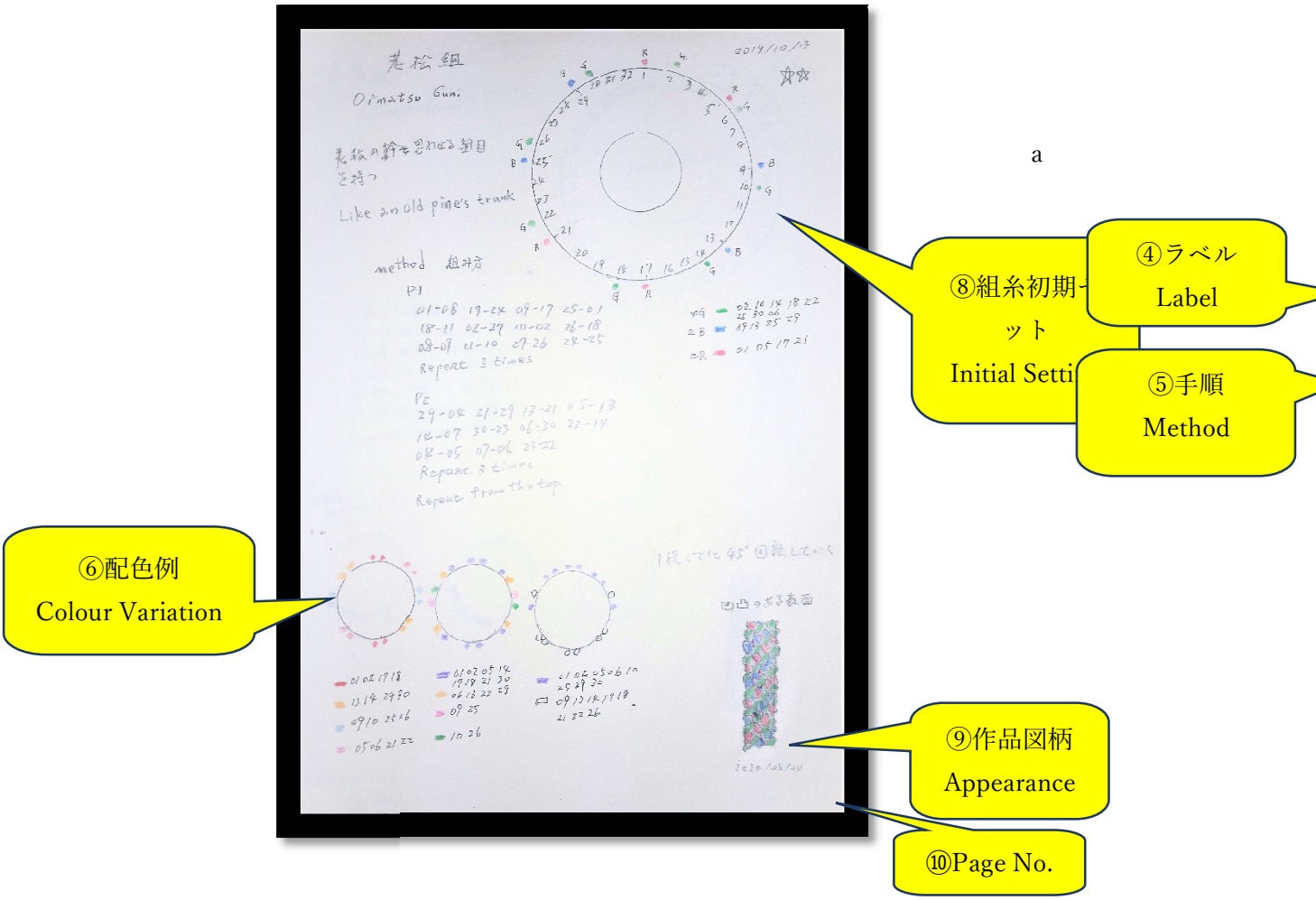
このテキストの使い方

① 日本語名称

②EnglishName

③デザイン由来

⑦難易度
Difficulty



①日本語名　Japanese name

伝統柄名があればそれを表示。オリジナルの場合は著者が命名したもの。

②英語名 English name　英語名　または英語によるデザイン説明

③デザイン由来等　Explanation of design name

④ラベル　Label of method

手順のまとまりを表す看板。

⑤手順　Method of braiding

01-08 とは　1 番のスロット（ディスクの糸を挟む位置）にある糸を 8 番に移動することを示します。　左から右へ、上から下へとこの順に従って糸を移動していきます。　右手を使うか左手を使うかは自由です。反対の手はディスクをしっかり支えておきます。

⑥配色例　colour Variation

別の配色例を示します。

⑦難易度　Difficulty

制作の難易度を☆印で示します。　☆が多いほど難易度が高くなります。

⑧ 組糸の初期配置を示します。　Initial Setting

⑨ 作品図柄

⑩ 図番ページ番号

作っておくと便利な道具

（上）　ストラップ用金具にキーホルダー金具をつけた

　　組糸をカニカンのリングやキーホルダー金具の輪などに通すとき糸通しとして使います。　そのほか、組終わりの始末に巻き上げ結びをするときに便利です。使わないときはハサミやほかの道具にぶら下げておくとなくすのを防げます。

（下）五円玉を使ったおもりにカニカンをつけた

　　５円玉６～７枚でちょうどよいおもりになります。糸を通してカニカンをつけておくと、組はじめに取り付けるのが簡単です。